

お釈迦さまのお誕生日

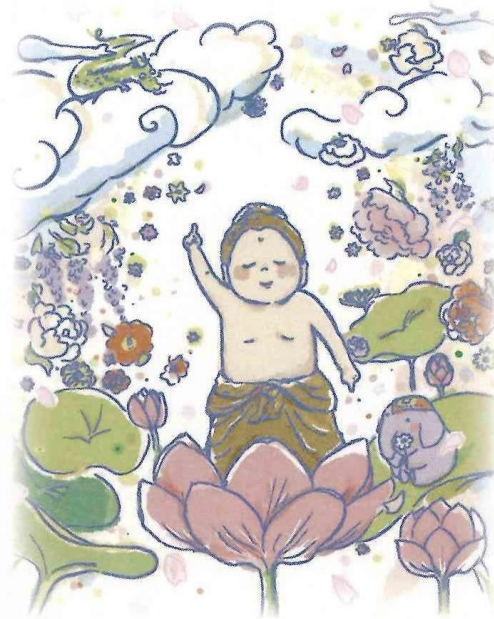
花まつり



暖かい日差しと心地よい風——。桜が新入生を祝うように花をつけ、散歩の途中にも花を愛でる機会が増えてきました。

この時期、仏教で大切な行事のひとつ「花まつり」が営まれます。花のまつりといっても、お花見や神輿を担いでワッショイ!・・ではなく、仏教を開かれたお釈迦さまのお誕生日(4月8日)をお祝いする法要行事のことで、「灌仏会」「降誕会」ともいいます。お寺の幼稚園や保育園に通われた方であれば、花々に彩られた花御堂にまつられた小さなお釈迦さまのお像に甘茶をかけた、という記憶をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。

この甘茶をかけるという風習は、お釈迦さまがシャカ族の王子として誕生した際に、頭上に龍が舞い降り、清らかな水(甘露水)を灌いでその誕生を祝ったという故



イラスト・きりたにかほり

事から始まったとされています。誕生時にはもう一つ忘れてはならないエピソードがあります。お釈迦さまは生まれてすぐ、7歩歩き、右手で

天を、左手で地面を指しながら「天上天下唯我独尊」とおっしゃいました。文字だけ見ると、「この世で私(我)より尊いものはない」と、傲慢な捉え方もできますが、本来の意味は全く異なるのです。

お釈迦さまのいう「私」とは、この世に存在するすべての「私」。つまり世界中の私たち一人ひとりのことを指しているのです。このことを通じお釈迦さまは、この世に享けたすべてのものの「いのちの尊さ」と「慈しみあうことの大切さ」を私たちに教えてくださっているのです。

花まつりは、私たち一人ひとりに、その存在といのちの尊さを再認識させてくれる特別な日なのです。

※地域によっては旧暦や月遅れに営む寺院もあります